

August
2013

The Record

vol.645

「レコード倫理審査会」が果たしてきた役割

「ミュージック・ジャケット大賞 2013」一般投票実施



®

RIAJ
Recording Industry Association of Japan

Contents

Monthly News Digest.....	1
特 集	
「レコード倫理審査会」が果たしてきた役割.....	3
特 報	
「第10回 東京国際ミュージックマーケット」開催...	7
「知的財産政策ビジョン」	
「知的財産推進計画 2013」が決定.....	8
「ミュージック・ジャケット大賞 2013」	
一般投票実施	9
PICK UP	10
ヒット曲で振り返る昭和	11
Data File.....	12
Monthly Production Report.....	13
GOLD DISC	14

7/4

第49回RIAJセミナー開催

7月4日、東京都港区の虎ノ門HILLS会議室において、第49回RIAJセミナーが開催された。今回のセミナーは「海外サブスクリプションビジネス：Spotifyの実例」と題して、スポティファイジャパン株式会社より、Hannes Graah Director of Japan、野本 晶 Licensing & Label Relations Director、孫龍活 Legal Counsel を講師に招き開催した。当日は、2,000万人を超えるユーザー数を誇る世界最大の有料ストリーミングサービス「Spotify」のビジネスモデルなど、既に海外で展開中の実例とともにサービス概要などの紹介が行われた。会員社の法務担当者、配信業務担当者を中心に135名が参加した。



●●当協会役員人事●●

■ 新任・再任 (6月28日付)

【会長】

齊藤 正明(新任)

ビクターエンタテインメント株式会社
代表取締役社長

【副会長】

北川 直樹(新任)

株式会社ソニー・ミュージックエンタテインメント
代表取締役コーポレート・エグゼクティブCEO

【副会長】

小池 一彦(再任)

ユニバーサル ミュージック合同会社
CEO兼社長

重村 博文(再任)

キングレコード株式会社 代表取締役社長

原 康晴(再任)

日本コロムビア株式会社
代表取締役社長兼COO

【顧問】

依田 巽(再任)

株式会社ドリーミュージック 代表取締役会長

佐藤 修(再任)

前 株式会社ポニーキャニオン 相談役

稲垣博司(再任)

エイベックス・エンタテインメント株式会社 顧問

■ 退任 (6月28日付)

【会長】

北川 直樹

株式会社ソニー・ミュージックエンタテインメント
代表取締役コーポレート・エグゼクティブCEO

「Blu-ray Disc™ の表示に関する運用基準 (別紙追補)」発行

当協会は「Blu-ray Disc™の表示に関する運用基準 (別紙追補)」を発行した。

これは、Blu-ray Disc™ 規格に準拠した、映像を収録しないオーディオ (音声) 専用商品の発売数が増加したことを受けて、消費者の店頭での誤認・誤購入および再生時の混乱などを回避する目的で定めるものである。同基準は、当協会公式サイトでPDF版を掲載している。

<Blu-ray Disc™ の表示に関する運用基準 (別紙追補) URL>

http://www.riaj.or.jp/issue/ris/pdf/ris_bd2010_1.pdf



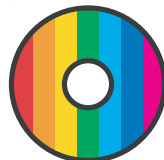
このエルマークは、レコード会社・映像製作会社が提供するコンテンツを示す一般社団法人日本レコード協会の登録商標です

「第6回 CD ショップ大賞 2014」 一次（前期）ノミネート作品発表

CD ショップ大賞実行委員会は「第6回CDショップ大賞 2014」一次（前期）ノミネート作品を発表した。

「行かなきゃ 会えない 音がある。」のスローガンのもと、全国のCDショップ店員が自ら「売りたい！聴かせたい！」作品を選出するCDショップ大賞。2013年1月1日～6月30日に発売された邦楽オリジナルアルバムを対象とする一次（前期）ノミネート10作品がこの度選出された。

全国CDショップ店員が選んだ
「行かなきゃ 会えない 音がある。」



第6回CDショップ大賞2014

■「第6回 CD ショップ大賞 2014」一次（前期）ノミネート 10 作品

アーティスト名	「作品名」	品番	（発売日）
ONE OK ROCK	「人生×僕＝」	AZCS-1024	(2013/3/6)
サカナクション	「sakanaction」	VICL-63999	(2013/3/13)
黒木 渚	「黒キ渚」	LACD-0237	(2013/3/20)
KANA-BOON	「僕が CD を出したら」	RCDA-1030	(2013/4/24)
星野 源	「Stranger」	VICL-63996	(2013/5/1)
グッドモーニングアメリカ	「未来へのスパイラル」	COCP-37940	(2013/5/8)
miwa	「Delight」	SRCL-8299	(2013/5/22)
パスピエ	「演出家出演」	WPCL-11424	(2013/6/12)
andymori	「宇宙の果てはこの目の前に」	XQFQ-1116	(2013/6/26)
【Champagne】	「Me No Do Karate.」	RX-076	(2013/6/26)

（ノミネート作品発売日順）

二次投票（後期）は、本年12月31日までに発売された作品を対象に投票を行い、2014年1月に二次（後期）ノミネート作品を選出する。その後、前・後期のノミネート作品から最終投票を実施し、第6回CDショップ大賞など各賞を選出する。大賞発表および授賞式は2014年3月上旬に開催を予定。

詳細は、全日本CD ショップ店員組合サイト (<http://www.cdshop-kumiai.jp/>) を参照。

■ 過去の大賞受賞作品

第1回CDショップ大賞2009（大賞）相対性理論「シフォン主義」

第2回CDショップ大賞2010（大賞）THE BAWDIES「THIS IS MY STORY」

第3回CDショップ大賞2011（大賞）andymori「ファンファーレと熱狂」

第4回CDショップ大賞2012（大賞）ももいろクローバーZ

「バトル アンド ロマンズ」

第5回CDショップ大賞2013（大賞）MAN WITH A MISSION

「MUSH UP THE WORLD」

RIAJ2013年7月度理事会議案

■ 審議事項

1. 東日本大震災の被災ケーブルテレビ局に係る二次使用料減免について
2. 2013 年度 音楽メディアユーザー実態調査費用の一部を予備費より支出する件
3. 予算委員会の委員長人事について
4. 委員会体制について
5. 一般社団法人放送コンテンツ海外展開促進機構への入会について

■ 報告事項

1. 名義使用申請に関する報告
 - (1) 日本音楽スタジオ協会「第 20 回日本プロ音楽録音賞」主催名義使用依頼
 - (2) 日本オーディオ協会「オーディオ・ホームシアター展 2013」後援名義使用依頼
 - (3) PROMIC「第 10 回東京国際ミュージックマーケット (10thTIMM)」協力名義使用依頼
 - (4) ユニジャパン「TIFFCOM2013」後援名義使用依頼
2. 平成 25 年度第 1 四半期重点施策および予算執行状況について
3. 著作権保護・促進センター関係報告
 - (1) 2013 年 6 月度活動状況について
4. マーケティング委員会関係報告
 - (1) ミュージック・ジャケット大賞 2013 / Music Jacket Gallery2013 について
5. 広報委員会関係報告
 - (1) 「違法ダウンロード罰則化」などの周知キャンペーン進捗状況報告
 - (2) 「GOLD DISC FESTIVAL」の開催概要について

●●当協会事務局人事●●

■ 入社（7 月 1 日付）

袴 俊雄

専務理事付特命担当部長
（ビクターエンタテインメント株式会社から出向）

「レコード倫理審査会」が果たしてきた役割

100年を超える歴史のレコード産業では、戦時下の音楽文化の浄化（軟弱流行歌の一掃）や敵性音楽追放などを経たのち、占領軍によるレコード検閲が1949年に廃止された。以後、レコード産業では自主規制を行ってきたものの、ラジオ全盛期、流行歌が広く大衆へ伝播されたときの社会的影響力の甚大さに鑑み、当協会は1955年にレコード倫理審査会（レコ倫）を発足した。以降、59年間にわたり毎月1回の審査会は継続され、この7月で第700回を迎えた。昨年（2012年）一年間の審査対象作品は9,256作品、このうち18作品が委員から問題指摘を受け、審査会における検討が行われた。

レコ倫の長く地道な活動の歴史は、民主主義の支柱である「表現の自由」とレコード制作者としての「倫理的責任」、双方を見据えた自律の積み重ねである。今号では、その歴史を振り返るとともに、あらためて、レコ倫が果たすべき役割を明らかにする。

レコード倫理審査会（レコ倫）とは

レコードが及ぼす社会的影響、特に心身ともに未成熟な青少年に与える影響の重大性に鑑み、レコード制作者としての社会的責任を果たすべく、適正な自主管理によりレコード倫理の確立を目指して当協会が設置。

「レコード倫理綱領」「レコード制作基準」に則り審査を行い、同基準に抵触すると判断されたレコードについて、注意・勧告を行う。業界内ではあるが第三者機関的に「問題点を指摘し、検討・回答を求める」機能を持つ。問題箇所「改善命令」を出すのではなく、商品として市場に出す出さないを含め、メーカーの責任と判断においてなされるレコード会社の自主管理で運営される機関である。相談機関や勉強会などの役割も担う。

レコ倫の歴史

年月	事項	社会背景など
1952年11月	「レコード制作基準」制定 レコード各社の自主的判断に委ねる体制	民間放送発足、レコード会社各社はこぞって自社の歌謡番組を企画。レコード喫茶・レコードコンサート・映画館・ラジオ・テレビなど、レコードは、家庭の中の個人的嗜好から家庭外の共同空間を利用した不特定多数の娯楽に移行し、社会的に強力な媒体に。歌謡曲の青少年に与える影響が問題化
1954年9月	「レコード制作基準」を「レコード倫理綱領」と「レコード制作基準」に分けて整理	
1955年5月	常設機関として「レコード制作基準管理委員会」（現 レコード倫理審査会 ）を発足、「レコード倫理審査会規程」制定 初代委員に学識経験者3名、レコード会社6社の文芸部長、当協会専務理事が就任	レコードの一般大衆娯楽化に際して、卑俗歌曲の放送締め出しなどが発生。日本民間放送連盟が各局同一の規制基準を作成、レコードの社会的影響は深刻化
1955年		メディアの倫理向上と言論・表現の自由の確保を目的とする「マスコミ倫理想談会」創設。新聞・放送・出版・映画・レコード・広告など各マスコミ諸団体で構成、当協会も参画
1960年9月	年々増加する新譜数に対処するため学識経験者を増員し、規程類の整備・改訂を実施	
1970年9月	右記の諸問題に対応するため「レコード倫理審査会規程」「レコード倫理綱領」「レコード制作基準」を改正	やくざ礼賛、暴力肯定、性（卑猥）表現、基本的人権（差別）が課題に
1991年10月	「レコード倫理審査会規程」「レコード倫理綱領」「レコード制作基準」改正	
2000年4月	右記の諸問題に対応するため「レコード倫理審査会規程」「レコード倫理綱領」「レコード制作基準」を改正	麻薬や覚醒剤、また、セクシュアルハラスメントや国籍、職業による差別などが大きな社会問題に
2006年10月	「レコード倫理審査会規程」「レコード倫理綱領」「レコード制作基準」改正	配信楽曲を審査の対象に追加
2013年7月	レコード倫理審査会、第700回目を迎える	

レコード倫理綱領

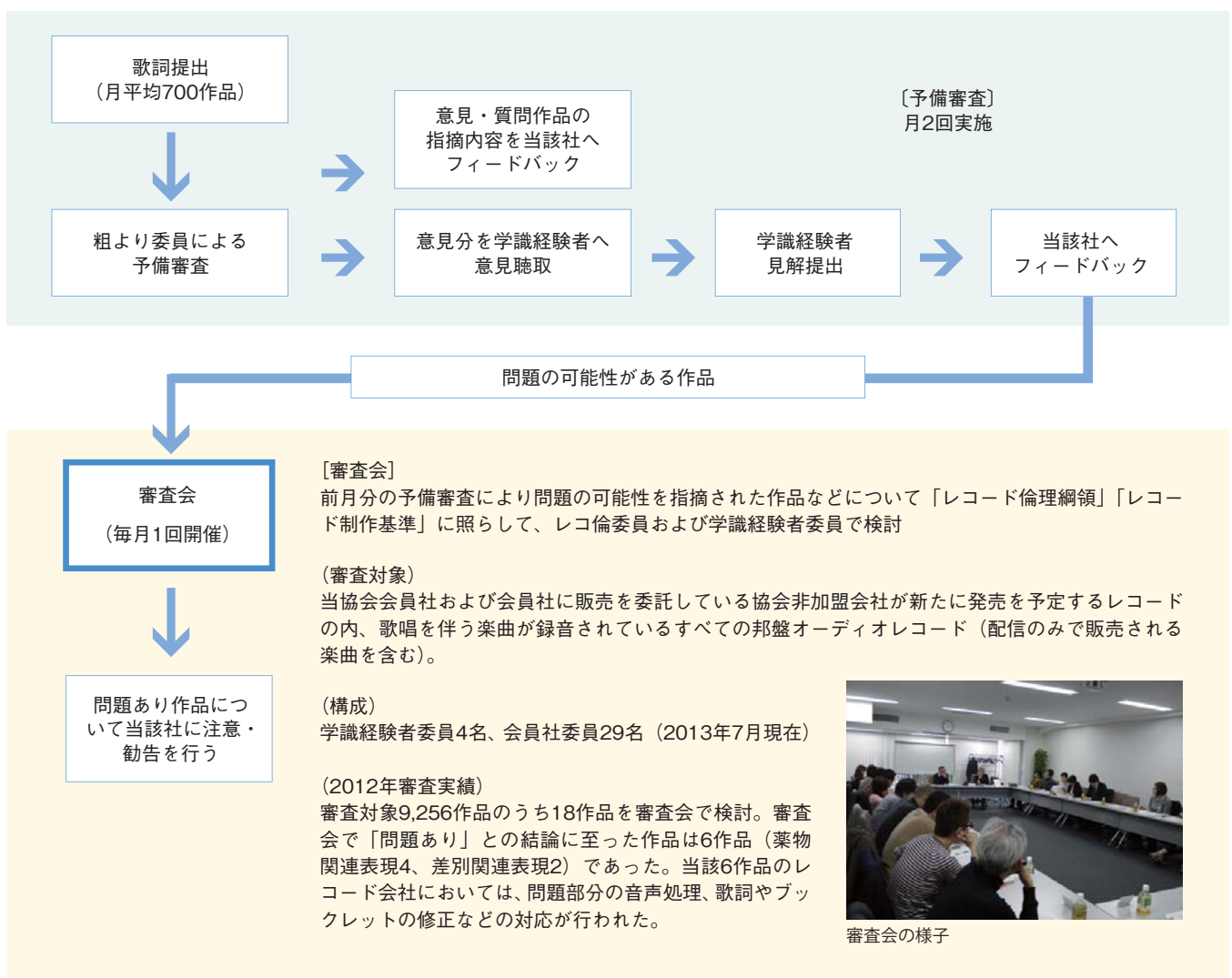
1. 音楽の持つ文化的意義
日本の音楽文化は、活字文化、映像文化などとともに、芸術・娯楽・教養などの日本文化の大きな柱であり、国民はこれを享受し、国民の豊かな精神生活が育まれている。
2. 音楽の持つ影響力の強さ
音楽はレコードにより個人でも簡単に、時間的制約を受けず、かつ反復して利用することが出来る。また、放送、有線放送等のマス媒体や、最近では特にインターネット、モバイル等を通じても受容される機会が多く、波及性が極めて高い文化と言える。
これにより、音楽の持つ訴求力は強く、国民の心理、精神、行動に極めて大きな影響力を与えている。
3. レコード制作者として果たすべき倫理的責任
まず、我々レコードの制作に携わる者は、伝統音楽文化の継承と、新しい才能の育成を通じて、日本の音楽文化の維持、創造を図り、日本文化のみに留まらず、海外の文化へ貢献する責任を持つ。
更に、音楽の持つ、特に青少年に対する影響力の強さに鑑み、我々は常に高い倫理観を持ちレコード制作に当たる責任を有する。
この目的のために、一般社団法人日本レコード協会は、「レコード倫理審査会」を設置し、「レコード制作基準」に則り審査を行い、レコード制作者としての社会的倫理責任を果たしていくことを目指す。

レコード制作基準

一般社団法人日本レコード協会加盟のレコード制作会社は、「レコード倫理綱領」の精神に則り、憲法及び諸法令を遵守し、次の基準に基づいてレコードを制作するものとする。

1. 国家及び社会公共の秩序を乱したり、良い習慣を破壊し、悪い風習を助長して国民の健全な生活を害することのないよう充分留意する。
2. 生命を軽視したり、正義を踏みにじったり、或いは麻薬・覚醒剤その他反社会的犯罪行為に魅力を感じさせることのないよう充分留意する。
3. 個人を侮蔑的に取扱ったり、境遇・信条・性別・国籍・職業等で差別したり、或いは精神的・肉体的障害をもつ人及びその関係者の心情を損うことのないよう充分留意する。
4. 国家・民族・団体等の名誉を傷つけたり、或いは国際親善関係に悪影響を与えることのないよう充分留意する。
5. 性を猥雑に扱うことのないよう充分留意する。
6. 次の時代をになう青少年に悪影響を与えることのないよう充分留意する。

レコード倫理審査会の審査プロセス



レコ倫 勉強会「歌詞に登場する差別的表現について」

レコード倫理審査会では本年3月11日に、同審査会学識経験者委員である西尾秀和先生を講師として「歌詞に登場する差別的表現について」をテーマとした勉強会を開催した。審査会で近年指摘を受ける表現として、薬物関連表現とともに差別的表現が多く取り上げられるが、グレイゾーン上のことばの判断に迷う余り、過剰な自主規制に陥るケースも見受けられる。今回の勉強会では、あらためてその判断基準や考え方などを具体的な事例とともに取り上げ、共通認識とすることを目的に開催された。本コーナーでは内容を抜粋してお伝えする。

「差別語と悪態語の基本的な違い」

線引きの判断基準 — 差別語は社会性が背景に存在する

差別語は前提として「人間」に対して発せられることばであり、言われた人が社会的に軽視あるいは無視されていると感じる社会性が背景に存在する。悪態語は人を不快な気分にするものの、ことば自体には問題はない。

「判断の難しいグレイゾーン上のことば」

同じことばであっても、健常者と障害者のように立場が異なると受け取り方、捉え方が変わることを認識し、念頭に置いておくことが必要。差別の意図がない日常的な用語として使用されていることばを、差別語だからといって安易に他のことばに置き換えて使用するべきではない。ことばの選択肢が狭められる結果を招きかねない。

「ヒステリー」など病名そのものは差別語ではないものの、前後の文脈から差別性を持たせて使用される場合などもあり、ことば単体を取り上げて差別語か否かを判断することは危険である。歌詞全体を通して判断することが重要である。抗議や指摘を受けた際の対応としては、先方の意見をすべて聞き入れるのではなく、ことばの使用に対する正当な理由を主張するといった姿勢も必要である。

「歌詞に使われやすい外国人呼称（民族呼称）」

民族呼称については、明解な理由でなく、「リズム感」「響きの良さ」などで歌詞に使用されるケースが多い。歴史的な背景が不明瞭であり、当該国において使うべきでないと言われている民族呼称は、安易な使用は控えるべきである。ただし「インディアンサマー」（小春日和）などの慣用語・熟語における使用については制限すべきではない。

「過剰な自主規制を排除しよう」

抗議を避けたいがために、安易にことばの制限や置き換えを行うことは、ことばの多様性喪失という結果を招きかねない。消極的な姿勢で過剰な自主規制を行うべきではない。一例として、「かったい」は、江戸時代にハンセン病を指して使用されていたことばであるが、古典落語などの台詞中で「ハンセン病」と言い換えることは明らかに不自然である。このようなことばは時代背景を踏まえて使用されるべきであり、現代の感覚で別のことばに安易に置き換えるべきではない。

レコード倫理審査会・学識経験者委員（2013年7月現在）

西尾 秀和氏

婦人画報社を経て講談社に入社。雑誌・書籍の編集に携わった後、法務部長として訴訟問題、人権・差別問題に取り組む。この間、日本雑誌協会（編集倫理委員会、人権小委員会）、日本書籍出版協会（出版の自由と責任委員会）、マスコミ倫理懇談会全国協議会、マスコミと公共性研究会、出版・人権差別問題懇談会、民族差別と表現に関する研究会などにかかわる。

■ 1998年4月レコード制作基準倫理委員会（現 レコード倫理審査会）学識経験者委員に就任、現在に至る。

小西 良太郎氏

スポーツニッポン新聞社入社。音楽担当記者、文化部長、編集局長などを経てフリーに。音楽記者の草分け的存在。音楽評論家として多岐に活動、音楽プロデューサーとしても数々の名曲を生む。1999年まで日本レコード大賞審査委員長を務める。

■ 2005年4月レコード倫理審査会学識経験者委員に就任、現在に至る。

家田 莊子氏

高校在学中から女優を続け、その後、10種以上の職歴を経て作家に。「私を抱いて、そしてキスして〜エイズ患者と過ごした一年の壮絶記録〜」で第22回大宅壮一ノンフィクション賞を受賞。「極道の妻たち」®「歌舞伎町シノギの人々」「四国八十八ヶ所つなぎ遍路」など代表作の他にも、数多くの著作を持つ。高野山真言宗最福寺にて得度、2007年には高野山大学にて伝法灌頂を受け僧侶に。

■ 1998年4月レコード制作基準倫理委員会（現 レコード倫理審査会）学識経験者委員に就任、現在に至る。

中村 季恵氏

日本放送協会入局後、番組制作・教養番組センターチーフプロデューサー、同・生活情報番組チーフプロデューサー、同・学校放送番組部長などを経て、NHKエンタープライズ取締役役に就任。以後、日本放送協会番組制作局長、考査室長、審議委員などを歴任した後、日本放送出版協会取締役、NHK厚生文化事業団理事長を務める。

■ 2013年5月レコード倫理審査会学識経験者委員に就任、現在に至る。

レコ倫審査委員を代表して、ビクターエンタテインメント株式会社、ユニバーサル ミュージック合同会社2名の委員の方々に、各社におけるレコード倫理への取り組みについてご寄稿いただいた。

ビクターエンタテインメント株式会社
管理部A&Rアドミニストレーショングループ
編成管理チーム チーフマネージャー

助川 仁氏



「自らが起点」となり発信することで根付いた自主管理の意識

弊社では発売55日前までに全ての歌詞を私の部署に集め、6名でチェックします。審査対象となりそうな歌詞は制作と協議し、提出の時点で見解を添えています。「質問・指摘が起点」で受動的に対応するのではなく、「自らが起点」となって歌詞を管理する＝自主規制の本質を根付かせる事が狙いですが、想定される質問・指摘に一段早く回答するという時短メリットも生まれます。歌詞が出来た時点での相談も増え、問題化しそうなものは軌道修正して事前の歯止めも行っています。

審査会で検討された自社の歌詞は、問題あり・なしに関わらず審議内容を制作に戻します。問題作品は社内倫理委員会（担当取締役・レコ倫委員・コンプライアンス担当＋当該制作部門長・制作担当）を招集し、全社で回答・対策を協議します。議事録の共有も、社内の啓蒙のひとつです。

自主規制は、表現の自由を守るための自分たちのルール。決して当たり障りのない歌詞を是とはしていないのですが、「事なかれ」と安全飛行になりがちな傾向も。時代を鮮やかに切り取った独創性のある歌詞を。でも誰かを傷つけたり違法行為を助長したりするのはダメだよ、と。それさえ守れば歌いたい事を歌えばいい、聴いた事のあるような歌詞じゃ面白くないぜ、ってハッパかけると…制作から逆にヘンな顔されてしまいますが（笑）。

ユニバーサル ミュージック合同会社
邦楽編成業務管理本部 マネージャー

久保田 豊氏



情報共有の積み重ねがもたらした歌詞に対する意識の高まり

レコード倫理向上に対して、当社はレーベル制を敷いている事もあり、各レーベルごとの独立性が強いので、ディレクター個々のスキルアップが重要と考えています。

その為にレコード倫理審査会で検討した作品に関しては全ディレクターに知らせ、どんな歌詞が問題になっているか、注意をしなければならないかの情報の共有を行っています。この事によりディレクターの歌詞に対する意識が高まったと思います。レコーディング前に歌詞が上がった時点でレコード倫理審査会メンバーに確認に来るディレクターも増えてきました。

また歌詞のチェックに関してはディレクター自身でのチェックが当然ですが、各レーベルごとに歌詞をチェックし、更にレコード倫理審査会メンバーがチェックをするという二重チェックを行っています。この事により「この歌詞がどうか？」という事が起こった場合、ディレクター、各レーベル担当者、審査会メンバーで確認や指導を行っています。

レコード倫理審査会への回答に関しても同様に確認を行い、レーベルトップに上げ会社としての回答を行っています。

各ディレクターに情報が行き渡った事により若いディレクターの中には事前に「この歌詞は止めようと思うのですが」と、ちょっとした事で先に制限を加えようとする場合も見られます。今後の課題としては変動的な倫理感にバランスよく対応できるディレクターの育成が重要かと考えています。

清水英夫氏 逝去

青山学院大学名誉教授の清水英夫氏が、6月19日に逝去されました。同氏は1998年よりレコード制作基準倫理委員会（現レコード倫理審査会）学識経験者委員に就任いただいて以降、長きに亘り諸活動を通じて当協会にご尽力いただきました。また、映倫管理委員会委員長、放送倫理・番組向上機構（BPO）理事長、日本出版倫理協議会議長などを歴任し、取材・報道の倫理向上に努めるなど多大な功績を残されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

「第 10 回 東京国際ミュージックマーケット」 開催



第 10 回目となる「東京国際ミュージックマーケット (10thTIMM)」が、今年も開催される。例年同様、経済産業省が推進する「JAPAN 国際コンテンツフェスティバル (CoFesta)」オフィシャルイベントとしての開催が決定し、商談会会場は、「TIFFCOM2013」「東京国際アニメ祭 2013 秋」などと一元化した開催となる。

「第 10 回東京国際ミュージックマーケット」開催概要 <http://www.timmkt.jp>

- ◆ 日程: 2013 年 10 月 22 日 (火) ~ 24 日 (木)
- ◆ 会場: ホテル グランパシフィック LE DAIBA、Zepp DiverCity TOKYO
- ◆ スケジュール (予定)

10月22日 (火) ・商談会 9:30~18:30 @ホテル グランパシフィック LE DAIBA
 (出展者プレゼンテーション※1 10:00~12:00)
 ・ショーケースライブ (セミナールーム) ※2 12:30~13:30 @ホテル グランパシフィック LE DAIBA
 ・ビジネスセミナー 14:00~16:00 @ホテル グランパシフィック LE DAIBA
 ・合同レセプション 19:00~21:00 @Zepp DiverCity TOKYO

10月23日 (水) ・商談会 9:30~18:30 @ホテル グランパシフィック LE DAIBA
 ・ショーケースライブ※3 17:30~21:30 @Zepp DiverCity TOKYO

10月24日 (木) ・商談会 9:30~17:30 @ホテル グランパシフィック LE DAIBA

- ※1 出展者プレゼンテーション / 個別商談会初日10/22のみ実施する、商談会出展者によるバイヤーへのプレゼンテーション
 ※2 ショーケースライブ (セミナールーム) / 個別商談会初日10/22のみ商談会会場で実施するライブ
 ※3 ショーケースライブ / Ustreamなどにおけるインターネット中継を実施

(主催) 経済産業省、一般財団法人音楽産業・文化振興財団

同会場で行うCoFesta他イベント

- ・「TIFFCOM 2013」Content Market at the Tokyo International Film Festival
 主催/経済産業省、ユニジャパン 対象/映画、TV関係者
- ・「東京国際アニメ祭 2013秋」Tokyo International Anime Festival
 主催/経済産業省、日本動画協会 対象/アニメ関係者、一般

第 9 回 TIMM 概要

(日 程) 2012 年 10 月 24 日、25 日

(開催会場) ホテルグランパシフィック LE DAIBA、Zepp DiverCity Tokyo

(海外招聘) 13 カ国・地域 87 名

(出展社数) 国内: 34 社・団体 (国内 27、海外 7)

「知的財産政策ビジョン」「知的財産推進計画 2013」が決定

2013年6月7日、首相官邸で知的財産戦略本部会合が開催され、我が国の知的財産政策展開の軸となる「知的財産政策ビジョン」が決定した。また、6月25日、同会合において「知的財産政策ビジョン」の初年度の具体的な行動計画となる「知的財産推進計画 2013」が策定された。

< 構成 >

「知的財産政策ビジョン」は、日本の今後10年程度を見据えた知的財産政策展開の軸となる4つの柱と、これらに沿った長期政策課題などを盛り込んだものである。あわせて、同日、4つの柱を中心に、長期基本方針にふさわしいものを抽出した「知的財産政策に関する基本方針」が閣議決定された。

◆ 4つの柱

（競争力強化・国際標準化関連）

- ① 産業競争力強化のためのグローバル知財システムの構築
- ② 中小・ベンチャー企業の知財マネジメント強化支援

（コンテンツ強化関連）

- ③ デジタル・ネットワーク社会に対応した環境整備
- ④ コンテンツを中心としたソフトパワーの強化

日本は今後、4つの柱を軸とした知的財産政策を展開していくこととなるが、「知的財産推進計画 2013」は、その初年度の具体的な行動計画として策定されたものである。

本知的財産推進計画においては、「知的財産政策ビジョン」に示された長期（10年）政策課題に沿って、短期（1～2年）・中期（3～4年）の具体的施策を定め、工程表を作成し、各施策の内容・実施府省・達成時期を明確にした。さらに、実施状況を知的財産戦略本部において毎年フォローアップしていくことにより、各施策の着実な実行を図るものとしている。なお、4つの柱のうち①と②を競争力強化・国際標準化関連として、また③と④をコンテンツ強化関連として、それぞれの項目を位置付けた上で、前提となる情勢認識を共通で記載し、具体的施策を記述している。

< 概要 >

- ・日本企業が不利にならない状況で知財戦略を実施できる環境整備と、日本企業の国際競争力の強化を推進する施策の実施が必要。
- ・「コンテンツ創造立国」の具体化に向けて、デジタル・ネットワーク社会に対応した環境整備とともに、ソフトパワーの強化策を策定し、官民一体となった実施が必要。

レコード業界は、特に、

- ① 産業競争力強化のためのグローバル知財システムの構築
- ③ デジタル・ネットワーク社会に対応した環境整備
- ④ コンテンツを中心としたソフトパワーの強化

に関連性が高いことから、各戦略における具体的な施策および進捗状況について、注視していく必要がある。

産業競争力強化のためのグローバル知財システムの構築

- ・海外における知財活動支援（アジア新興国における知財権に基づくエンフォースメントの支援体制の強化など）
- ・グローバル知財人材の育成・確保（知財マネジメント人材を養成するための場の形成など）

デジタル・ネットワーク社会に対応した環境整備

- ・コンテンツ産業の市場拡大に向けた環境醸成（クリエイターへの適切な対価還元に向けた私的録音録画補償金制度の見直し、クラウドサービスなどの新産業の創出や拡大を促進する権利制限規定の見直し、コンテンツの権利処理の円滑化など）

コンテンツを中心としたソフトパワーの強化

- ・クールジャパンを推進しソフトパワーを強化する（日本の産業や文化と一体となったコンテンツの発信力強化、魅力あるコンテンツの制作支援、正規品の流通拡大と一体となった侵害対策の推進など）

なお、「知的財産推進計画 2013」の全文は、以下を参照されたい。

<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/titeki2/kettei/chizaikeikaku2013.pdf>

「ミュージック・ジャケット大賞 2013」一般投票実施 ～好きな音楽があるように好きな音楽ジャケットもきっとある！



「ミュージック・ジャケット大賞 2013」では、二次審査となる一般投票を MJG2013 会場および特設ウェブサイトにて実施した。



MJG2013 会場投票

現物を見ながら投票

MJG2013 都内 2 会場では、一次審査通過全 100 作品を展示し、投票を受け付け

（新宿会場）新宿高島屋 1 階 JR 口特設会場（7/18～7/23）



一次審査通過全 100 作品を、各社推薦コメントとともに掲示



会場では、候補作品の現物商品もあわせて展示、来場者はこれらを実際に手に取り、投票を行うことが可能



（渋谷会場）タワーレコード渋谷店 8 階 SpaceHACHIKAI（7/25～7/28）



今回新設した「企画賞」候補作品の一部。2013 年のテーマは動物



<http://mja.jpn.com/>

ウェブで投票（6/17～7/31）

特設サイト（<http://mja.jpn.com/>）では、一次審査通過全 100 作品を掲載し、投票を受け付け

多くの皆さまにご投票いただき、ありがとうございました。
受賞作品の発表は 2013 年 9 月上旬を予定、結果をお楽しみに！！



PICK UP

今月のニュース・ピックアップ



「ミュージック ジャケット ギャラリー 2013」開催

日本の女性アイドル 500 ジャケット 1970-2013

ミュージックジャケットギャラリー実行委員会主催の「ミュージック ジャケット ギャラリー 2013」が、7月18日から23日の日程で新宿高島屋、7月25日から28日の日程でタワーレコード渋谷店で開催された。

7回目となる今回のテーマは「日本の女性アイドル」。昨今の新たなアイドルブームや80年代のアイドルシーン再評価の潮流を受け、1970年代から現在までの「日本の女性アイドル」の歴史を、500枚以上のシングル盤ジャケットを展示することで一挙に振り返ることができる内容となっている。



◆ 女性アイドル 500 ジャケット 1970-2013

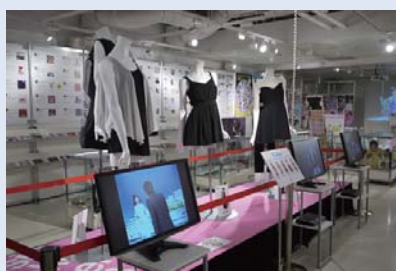


新三人娘（南沙織、天地真理、小柳ルミ子）、山口百恵、キャンディーズ、ピンクレディー、松田聖子、中森明菜、小泉今日子、おニャン子クラブ、森高千里、安室奈美恵、モーニング娘。、AKB48 など、

時代を表す「8cm シングル」の数々



懐しの音楽番組などアイドル映像も上映



℃-ute のステージ衣装



渋谷会場では年代別女性アイドルの商品展開コーナーも設置

◆ PLAYBUTTON ジャケットデザインコンテスト



缶バッジ型のデジタルオーディオプレイヤー「PLAYBUTTON」の、ジャケットデザインコンテスト受賞作品も展示公開



(WEB) <http://www.epa-mjg.com/>
(twitter) @musicjacket
(Facebook) <http://www.facebook.com/musicjacket>



ヒット曲で 振り返る 昭和 Vol. 17

歌は世につれ世は歌につれ—。

音楽評論家・反畑誠一氏の執筆のもと、

時代を彩ったヒット曲から、激動の「昭和」を追想する。

昭和57年～58年（1982～1983）

S57「赤いスイートピー／（唄）松田聖子」

（作詞）松本隆（作曲）呉田軽穂

「音楽・文化」の拡張と拡散の時代に入り、中心的存在になったのは「アイドル」であった。素材の発掘はテレビ、雑誌などのメディアが軸になった。松田聖子はその中心的存在で、彼女は福岡県久留米市出身。高校1年生の時、当時「CBSソニー」主催、「ミス・セブンティーンコンテスト」九州大会に応募したことから「聖子伝説」が始まった。「気まぐれヴィーナス」（作詞：阿久悠、作曲：森田公一）の録音テープを送り届け、合格したのだ。この曲は、「中3トリオ」の一角で、人気絶頂期にあった桜田淳子の19枚目シングル作品。第28回NHK紅白歌合戦出場曲でもあった。作詞した阿久悠は「マリリン・モンローのイメージ」と説明していたという。

当時10代を対象にした総合週刊誌として集英社が創刊した「週刊セブンティーン」が協賛企業。一足先に発刊された「週刊ティーンラック」（主婦と生活社・S43年創刊）がGSブームを支えていたのとは好対照であった。松田聖子は九州大会で優勝したものの両親の反対で辞退。しかし聖子のパワフルな歌声を聴いたCBSソニー若松宗雄ディレクターの「この子は絶対に売れる」という直感がその後の「聖子ヒット・ストーリー」創出の出発点になる。聖子は高校3年で

上京。桜田淳子と同じサンミュージックに所属し、芸能活動がスタート。S55年4月1日「裸足の季節」（作詞：三浦徳子、作曲：小田裕一郎）でデビューした。三浦徳子が描いた聖子は『自我』の確立された女性であり、はっきりと自己主張している」と『歌謡曲』の著者、高譲氏は指摘している。キャッチフレーズは「抱きしめたい！ミス・ソニー」だった。

「聖子ちゃんカット」と名付けられたヘアスタイルとともにアイドル路線を突っ走る彼女の音楽性を確立するきっかけは、第2弾シングル「裸足の季節」から「青い珊瑚礁」「風は秋色」「白いパラソル」と続いたパステルカラー路線。テレビの歌謡番組「ザ・ベストテン」「夜のヒットスタジオ」などや「音楽祭」の全盛期と連動して「聖子ブーム」は上昇気流に乗っていった。その決定打は8枚目のシングル「赤いスイートピー」であろう。作詞松本隆、作曲呉田軽穂（松任谷由実）のコンビ。「あの人の表現力、歌なんだけど全身で表現している」松本隆評。「文芸路線で聖子のイメージの確立を図った」と若松氏は明かす。昭和のアイドル歌謡がJ-POPへの架け橋になった「聖子神話」の一端である。

ジャケット写真協力：一般財団法人古賀政男音楽文化振興財団
株式会社ソニー・ミュージックダイレクト



S58「矢切の渡し／（唄）細川たかし」

（作詞）石本美由起（作曲）船村徹

船村徹さんの最近刊の著書「魂の響き—のぞみ」（潮出版社）の中に『矢切の渡し』ができるまで」という章がある。「あの歌の発端は、NHK『新日本紀行』という番組だった。東京の渡し場というのは、江戸川の矢切の渡ししか残っていない。そこも、いよいよ取り壊しになるという内容だった」（S51年5月放送）と記憶する。船村さんは「これは今のうちに曲にしないといけないと思い、すぐに柴又まで行った」。帰りに川魚料理店で昼食を取った際、「渡し船はもう駄目なんだね」と店員に言うと、「誰も乗らないもの」と言われた。その帰り道コロムビア本社へ立ち寄り、久しぶりに会った石本さんに、その日見てきた矢切の渡しのことを話したところ「僕もちょっと考えてみよう」と関心を示した。そして4、5日後「あの詞が送られてきた」と明かす。

男女の道行きの話が綴られ、二人の掛け合いが見事に綴られていた。「今度は私が詞に負けない曲を作らねばならない」と思った船村さんは、「川で見てきた和船のイメージを大切にしたい」と思った。「その情景が蘇るような曲をつくりたい。和船は艫で漕ぐ。エンジンがついているわけではない。船は人が漕ぐリズムで進まねばいけない」。このような経緯で生まれた「矢切…」だが、船村さんは初めから「ちあきなおみ君に歌ってもらおう」と決めていた。

『さだめ川』がヒットした実績から、石本・船村コンビの作品なら演歌でも歌うと言ってきていたそう。しかしレコード会社の川シリーズで行きたいという戦略から、「酒場川」のB面曲としてS51年10月シングルEPで発売された。

その後、ドラマの挿入歌に起用されるなど話題曲になり、S52年10月、A面シングル曲として再発売された。翌S58年、細川たかし、瀬川瑛子、中条きよし、春日八郎&藤野とし恵、島倉千代子&船村徹など7種類のシングルレコードが各社競作状態で発売され、細川たかしバージョンが最も売れた。その結果、第24回日本レコード大賞を受賞した。「B面だったということ、ちあき君の歌が素晴らしすぎて観賞用になってしまったことが相俟って大ヒットにならなかったが、そろそろカラオケが流行りだして歌いたいと思わせる歌がヒットするようになっていた」と船村さんは指摘する。12cm CDが市場に初登場した頃と時を同じくする。心が震えるような歌謡曲の真髄を凝縮した名作の誕生秘話である。なお船村さんは4年後、昭和の名曲、美空ひばり「みだれ髪」を作曲した。

ジャケット写真協力：一般財団法人古賀政男音楽文化振興財団
日本コロムビア株式会社



当時の出来事

S57：（エンタメ業界）

- コンパクトディスク（CD）ソフト・プレーヤー発売、オーディオ革命の担い手に（CDソフト3,500円・3,800円）
- 「笑っていいとも！」放送開始
- 穂積隆信著「積木くずし」話題に
- 映画「E.T.」大ヒット
- 東京地裁、テレビゲーム著作権訴訟でコンピュータ・プログラムの著作権を認める

（その他一般）

- 東京赤坂ホテル・ニュージャパン火災
- 500円硬貨、発行

- 東北新幹線、上越新幹線開業
- ホールインワン保険発売、20日で約4千件契約の人気
- 大宮市デパート5万円オウフガタ登場
- ロッテ「雪見だいふく」大ヒット（100円）
- ユニ・チャーム「ムーニー」（使い捨て紙おむつ）ヒット（70円～80円）
- 東京都内にカード式公衆電話が登場、同時にテレホンカードも発売

S58：（エンタメ業界）

- 貸し規制暫定法案成立
- 連続テレビ小説「おしん」放映開始・大ブームに

- 「楳十郎考」カンヌ映画祭グランプリ
- 「戦場のメリークリスマス」封切
- 劇団四季「キャッツ」開幕
- 任天堂「ファミリーコンピュータ」発売・大ヒット（14,800円）
- 初のCATV会社町田市で設立許可

（その他一般）

- 東京ディズニーランド、オープン
- 三宅島大噴火
- 日本初の「試験管ベビー」誕生
- キャベツ畑人形人気（6,500円）
- 大塚製薬「カロリーメイト」発売（200円）



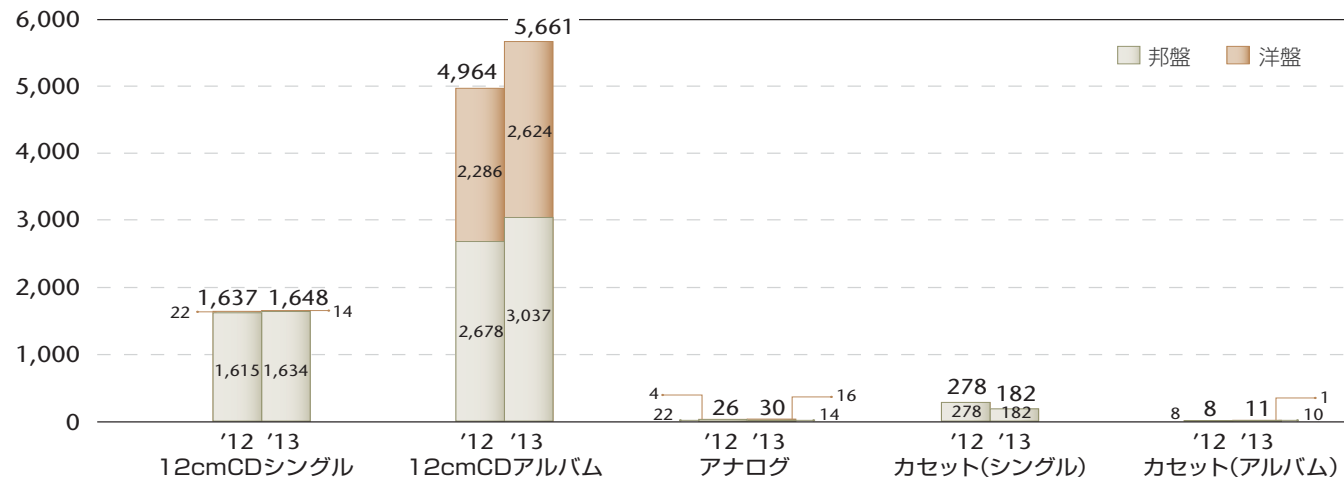
反畑誠一（音楽評論家）
立命館大学産業社会学部
客員教授（『ポピュラー音楽概論』、日本音楽著作権協会理事、日本レコード大賞常任実行委員）

2013年上半期新譜タイトル数

2013年（平成25年）上半期（1～6月）販売の新譜タイトル数がまとまった。オーディオは、合計で前年同期比109%の7,532タイトルとなった。また、音楽ビデオについては、合計で前年同期比113%の932タイトルとなった。なお、一昨年より集計を開始したブルーレイディスク（音楽）については対前年比120%の200タイトルであった。

● オーディオレコード新譜数

タイトル



● オーディオレコードジャンル別新譜数

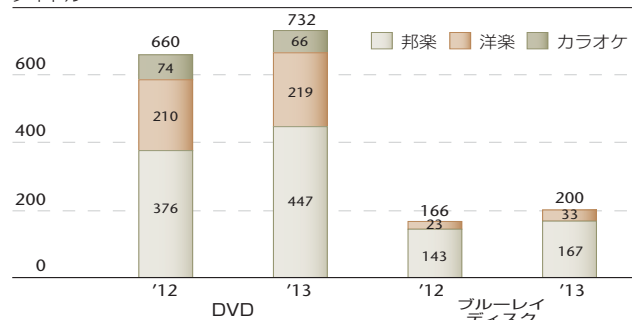
タイトル

ジャンル			8cmCD	12cmCD			アナログ	カセット		合計
				シングル	アルバム	計		シングル	アルバム	
邦盤	歌謡曲	演歌	0	287	181	468	1	172	10	651
		ポップス	0	763	1,131	1,894	2	5	0	1,901
		ニューミュージック	0	360	1,056	1,416	11	0	0	1,427
		小計	0	1,410	2,368	3,778	14	177	10	3,979
	軽音楽	民謡・純邦楽	0	5	136	141	0	0	0	141
		教育・教材・童謡・童話	0	14	34	48	0	5	0	53
		アニメーション	0	0	80	80	0	0	0	80
		クラシック	0	198	193	391	0	0	0	391
		カラオケ	0	0	58	58	0	0	0	58
		その他	0	0	0	0	0	0	0	0
		その他	0	7	168	175	0	0	0	175
	邦盤計		0 (-)	1,634 (101%)	3,037 (113%)	4,671 (109%)	14 (64%)	182 (65%)	10 (125%)	4,877 (106%)
洋盤	ポピュラー	ロック・ダンス	0	4	1,103	1,107	6	0	0	1,113
		ジャズ・フュージョン	0	0	453	453	5	0	0	458
		ポピュラーソング	0	9	222	231	0	0	0	231
		映画音楽	0	0	70	70	0	0	1	71
		その他	0	0	14	14	0	0	0	14
		小計	0	13	1,862	1,875	11	0	1	1,887
	クラシック		0	1	759	760	5	0	0	765
	その他		0	0	3	3	0	0	0	3
	洋盤計		0 (-)	14 (64%)	2,624 (115%)	2,638 (114%)	16 (400%)	0 (-)	1 (-)	2,655 (115%)
合計			0 (-)	1,648 (101%)	5,661 (114%)	7,309 (111%)	30 (115%)	182 (65%)	11 (138%)	7,532 (109%)

() 内は対前年比

● 音楽ビデオ新譜数

タイトル



● 音楽ビデオジャンル別新譜数

タイトル

ジャンル	DVD	ブルーレイディスク	合計
邦楽	447	167	614
洋楽	219	33	252
カラオケ	66	0	66
合計	732 (111%)	200 (120%)	932 (113%)

() 内は対前年比

Monthly Production Report

2013年6月度レコード生産実績

6 月度の音楽ソフト（オーディオレコード・音楽ビデオの合計）生産実績は、数量で前年同月比 108% の 2,134 万枚・巻、金額で同 113% の 255 億円となった。

内訳は、オーディオレコードが、数量で前年同月比 112% の 1,681 万枚・巻、金額で同 127% の 212 億円。音楽ビデオが、数量で前年同月比 97% の 453 万枚・巻、金額で同 71% の 43 億円となっている。

● オーディオレコード

(数量:千枚・巻/金額:百万円)

			6 月実績						2013 年 1 月～2013 年 6 月累計					
			数 量	構成比	前年 同月比	金 額	構成比	前年 同月比	数 量	構成比	前年 同期比	金 額	構成比	前年 同期比
シ	8cmCD	邦	4	0	168%	3	0	165%	19	0	52%	13	0	45%
		洋	0	0	-	0	0	-	0	0	320%	0	0	229%
		計	4	0	173%	3	0	170%	19	0	53%	13	0	45%
ン	12cmCD	邦	4,407	26	101%	3,274	15	99%	29,643	32	103%	20,134	21	99%
		洋	25	0	10%	15	0	9%	373	0	43%	290	0	47%
		計	4,432	26	96%	3,288	16	95%	30,017	32	101%	20,424	21	98%
グ	小計	邦	4,411	26	101%	3,276	15	99%	29,662	32	103%	20,146	21	99%
		洋	25	0	10%	15	0	9%	374	0	43%	290	0	47%
		計	4,436	26	96%	3,291	16	95%	30,035	32	101%	20,437	21	98%
ル	12cmCD アルバム	邦	10,033	60	138%	15,485	73	154%	48,761	52	106%	62,281	64	100%
		洋	2,184	13	74%	2,264	11	76%	14,222	15	85%	13,039	13	85%
		計	12,218	73	119%	17,749	84	136%	62,984	67	100%	75,320	78	97%
	CD 合計	邦	14,444	86	124%	18,761	88	141%	78,423	83	105%	82,427	85	100%
		洋	2,209	13	69%	2,279	11	72%	14,596	16	83%	13,329	14	83%
		計	16,654	99	112%	21,040	99	128%	93,019	99	101%	95,757	99	97%
	アナログ ディスク	邦	4	0	47%	4	0	47%	43	0	67%	60	0	248%
		洋	15	0	169%	34	0	183%	66	0	161%	108	0	184%
		計	19	0	113%	38	0	139%	108	0	103%	168	0	203%
	カセット テープ	邦	110	1	95%	88	0	94%	770	1	78%	603	1	77%
		洋	1	0	-	1	0	-	1	0	38%	1	0	108%
		計	110	1	95%	89	0	95%	770	1	78%	604	1	77%
	その他	邦	19	0	139%	25	0	145%	83	0	79%	116	0	97%
		洋	11	0	83%	21	0	80%	124	0	52%	246	0	60%
		計	30	0	112%	46	0	106%	207	0	60%	362	0	68%
合 計		邦	14,577	87	123%	18,879	89	140%	79,318	84	104%	83,207	86	99%
		洋	2,236	13	70%	2,335	11	73%	14,787	16	83%	13,684	14	83%
		計	16,813	100	112%	21,213	100	127%	94,105	100	100%	96,891	100	97%

● 音楽ビデオ

		6 月実績						2013 年 1 月～2013 年 6 月累計					
		数 量	構成比	前年 同月比	金 額	構成比	前年 同月比	数 量	構成比	前年 同期比	金 額	構成比	前年 同期比
DVD	邦	4,017	89	96%	3,193	74	62%	25,090	88	90%	27,480	76	93%
	洋	261	6	87%	308	7	103%	1,188	4	51%	1,285	4	52%
	計	4,279	94	95%	3,502	82	64%	26,279	92	87%	28,765	80	90%
Blu-ray Disc	邦	211	5	140%	646	15	124%	2,104	7	188%	6,978	19	172%
	洋	40	1	289%	144	3	451%	141	0	76%	411	1	83%
	計	250	6	152%	790	18	143%	2,245	8	172%	7,389	20	162%
テープ・その他		0	0	2%	0	0	5%	2	0	26%	4	0	32%
合 計	邦	4,228	93	97%	3,840	89	68%	27,196	95	94%	34,463	95	103%
	洋	301	7	96%	452	11	136%	1,330	5	53%	1,696	5	57%
	計	4,529	100	97%	4,292	100	71%	28,526	100	91%	36,159	100	99%

● 音楽ソフト（オーディオ/音楽ビデオ合計）

			6 月実績						2013 年 1 月～2013 年 6 月累計					
			数 量	構成比	前年 同月比	金 額	構成比	前年 同月比	数 量	構成比	前年 同期比	金 額	構成比	前年 同期比
オーディオ			16,813	79	112%	21,213	83	127%	94,105	77	100%	96,891	73	97%
音楽ビデオ			4,529	21	97%	4,292	17	71%	28,526	23	91%	36,159	27	99%
合 計		邦	18,805	88	116%	22,719	89	119%	106,515	87	101%	117,670	88	100%
		洋	2,537	12	72%	2,787	11	79%	16,116	13	79%	15,380	12	79%
		計	21,342	100	108%	25,505	100	113%	122,631	100	98%	133,050	100	97%

● ビデオ（含音楽ビデオ）

			6 月実績						2013 年 1 月～2013 年 6 月累計					
			数 量	構成比	前年 同月比	金 額	構成比	前年 同月比	数 量	構成比	前年 同期比	金 額	構成比	前年 同期比
DVD			7,827	75	95%	10,157	60	86%	45,582	81	92%	65,223	66	90%
テープ・その他			2,590	25	204%	6,839	40	200%	10,970	19	151%	33,285	34	161%
合 計			10,416	100	109%	16,997	100	111%	56,551	100	99%	98,508	100	106%

● オーディオ/ビデオ合計

			6 月実績						2013 年 1 月～2013 年 6 月累計					
			数 量	構成比	前年 同月比	金 額	構成比	前年 同月比	数 量	構成比	前年 同期比	金 額	構成比	前年 同期比
オーディオ			16,813	62	112%	21,213	56	127%	94,105	62	100%	96,891	50	97%
ビ デ オ			10,416	38	109%	16,997	44	111%	56,551	38	99%	98,508	50	106%
合 計			27,229	100	111%	38,210	100	120%	150,656	100	100%	195,399	100	101%

備考 1. 本年実績は、会員会社の集計である。当会員社が受託した非会員社からの販売委託分を含む
2. 単位未満四捨五入により、内訳と合計が一致しない場合がある
※オーディオレコードのその他は SACD、DVD オーディオ、DVD ミュージック、MD の合計

音楽ソフト

邦 楽

アルバム

● ダブル・プラチナ

B'z The Best XXV 1988-1998	B'z	2013.06.12	BG
B'z The Best XXV 1999-2012	B'z	2013.06.12	BG

● ゴールド

なんだこれくしょん	きりーばみゆばみゆ	2013.06.26	WJ
いいね! (´・ω・`)☆	GReeeeN	2013.06.19	UM
Produced by Masaharu Fukuyama 「Galileo+」	V.A.	2013.06.26	UM
Summer Ballad Covers	May J.	2013.06.19	AMI

シングル

● ダブル・プラチナ

僕らのユリイカ	NMB48	2013.06.19	LOL
---------	-------	------------	-----

● プラチナ

涙の答え	関ジャニ∞	2013.06.12	TE
Joy!!	SMAP	2013.06.05	V
Mistake!/Battery	SMAP	2013.02.27	V
Come On A My House	Hey! Say! JUMP	2013.06.26	JA

● ゴールド

Flower Song	EXILE	2013.06.19	AMI
一千一秒	EXILE TAKAHIRO	2013.06.26	AMI
常夏ハイタッチ	SUPER☆GiRLS	2013.06.12	AMI
OCEAN	東方神起	2013.06.12	AMI

ビデオ

● ダブル・プラチナ

EZ DO DANCERCIZE	TRF	2012.06.30	AMI
------------------	-----	------------	-----

洋 楽

シングル

● ゴールド

TONIGHT	キム・ヒョンジュン	2013.06.05	UM
---------	-----------	------------	----

※日付は発売日

認定基準一覧

音楽ソフト(邦・洋、アルバム・シングル・音楽ビデオ)、音楽配信(着うた®、着うたフル®, パソコンダウンロードシングル・アルバム) 共通

名称	略号	基準
ゴールド	G	10万以上
プラチナ	P	25万以上
ダブル・プラチナ	PP	50万以上
トリプル・プラチナ	PPP	75万以上
ミリオン	M	100万以上
2ミリオン	2M	200万以上
3ミリオン	3M	300万以上
以降、100万ごとに賞を設定		

基準単位: 音楽ソフト・枚、配信・DL (ダウンロード)

※着うた®のみダブル・プラチナ以上を顕彰

※ **AMI**: エイベックス・マーケティング / **BG**: ビーイング / **JA**: ジェイ・ストーム / **LOL**: laugh out loud! records / **SE**: エスエムイーレコーズ / **TE**: テイチクエンタテインメント / **UM**: ユニバーサルミュージック / **V**: ビクターエンタテインメント / **WJ**: ワーナーミュージック・ジャパン / **YRC**: よしもとアール・アンド・シー

有料音楽配信

※「着うたフル®」は株式会社ソニー・ミュージックエンタテインメントの登録商標です

「着うたフル®」

邦 楽

● ダブル・プラチナ

たとえ どんなに...	西野 カナ	2011.11.02	SE
-------------	-------	------------	----

● ゴールド

O'ver	EXILE	2006.09.20	AMI
FANTASTIC BABY (Japanese ver.)	BIGBANG	2012.03.28	AMI

洋 楽

● ゴールド

CALL ME MAYBE	カーリー・レイ・ジェプセン	2012.07.18	UM
---------------	---------------	------------	----

「PC 配信 (シングル)」

邦 楽

● ゴールド

オーマイガー!	NMB48	2011.10.12	YRC
月と太陽	ケツメイシ	2013.04.17	AMI
恋する季節	ナオト・インティライミ	2013.04.17	UM

※日付は配信開始日

協会からのお知らせ

「大人の音楽～ Age Free Music ～」第10弾キャンペーンが、7月23日～9月30日の日程で展開中です。

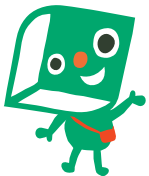
第10弾キャンペーンは「もう一度聴きたいオリジナルアルバム80年代&90年代」をキャッチコピーに、1980年代そして1990年代のオリジナルアルバム74作品を対象商品としてラインアップ、豪華賞品が当たるプレゼントキャンペーンを実施中です。

また、同キャンペーン74作品を掲載したフリーペーパー「Age Free Music」も発行中です。TEAM美魔女が語る80年代、90年代の音楽対談、レコード店・レコード会社スタッフ厳選のオススメアルバム紹介など、大人の音楽情報満載の内容となっています。



(キャンペーンサイトURL)

<http://www.riaj.or.jp/otonaongaku/index.html>



エルマークキャラクター
エルマーくん

THE RECORD No.645 2013年8月号 一般社団法人 日本レコード協会 機関誌

発行人 斉藤 正明
編集人 田口 幸太郎
発行日 2013年8月12日
発行 一般社団法人 日本レコード協会
〒105-0001 東京都港区虎ノ門2-2-5 共同通信会館9F
TEL. 03-5575-1301 (代) FAX. 03-5575-1313
URL: <http://www.riaj.or.jp/>

制作協力 株式会社エフビーアイ・コミュニケーションズ

編集後記

文字で起こされた歌詞を追いながら音楽を聴くと、一気に歌の世界観が広がります。メロディーを通して記号化されていた言葉が、すっと胸に落ち、新たなイメージが喚起されるものです。

この7月で700回を迎えたレコード倫理審査会。音楽の視聴スタイルが変化し続けるなか、今回の特集を通じて「歌詞」そして「歌詞カード」について、あらためて思うところがありました。(T)